

1. 背景・目的

在籍校の授業と級友とのつながりを作ることによって、「生徒の思い」を大切に学習支援の実施

- ① 学習機会の保障と退学や原級留置の防止
- ② 在籍校への所属意識の維持
- ③ 心理的不安の軽減である。

2. 事業の内容及び成果

- ① ワンストップ窓口としての学習支援コーディネーターの設置
⇒ 病院、学校を迅速につなぐための学習支援コーディネーターを地区ごとに3名設置し、多職種カンファレンスの実施により、病院と学校が連携した切れ目ない学習支援を実施。
- ② 医療関係者による長期入院生徒の現状や支援の必要性に関する講演会
⇒ 長期入院生徒に対する学習支援の必要性を多くの教員が把握することで、校内の学習支援体制が速やかに構築。



学校の理解、病院と学校的意思疎通が入院生徒への速やかな学習支援につながる
生徒や保護者の負担を減らし、当該生徒のニーズに応じた学習機会を保障
特定の教員に係る負担の軽減

- ③ ICT機器を活用した遠隔授業の配信
⇒ 長期入院中であっても在籍校に所属しながら入院前と同じように当該学校の授業を受け、テストや課題に取り組み、転校や休学をすることなく在籍校での進級や卒業が可能。



在籍校への所属意識を維持することで、学習や治療に対するモチベーションを高める
学校内で「誰一人取り残すことのない」丁寧な学習指導への意識が高まる

- ④ ICTスキルの向上
⇒ 拠点校による研究や校内研修により全県のICTスキルを向上させ、長期入院中の生徒であっても一人ひとりの成長や学びの成果、学びに向かう意志的な側面の評価をすることができる。



入院生徒の学習成果を丁寧に評価することにより、生徒の心理的不安の軽減をはかったり、原級留置の防止につながる

3. 今後の課題

- ① 「県立高校に在籍する生徒の入院時学習支援事業」の更なる周知
チラシやリーフレットを作成し、県内学校や病院へ送付し、広く県民に事業を周知する。
- ② 実施要綱の改定、自走に向けたノウハウの蓄積
事業が活用しやすくなるよう実施要綱を改定し、学校や生徒が活用しやすいものにする。
活用実績を増やし、そこで得られたノウハウを蓄積し、自走に向けて整理する。

本事業は、文部科学省の委託を受け、実施したものです。

報告書の詳細は、下記URLからご覧ください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/006/r01/1422837_00003.htm

